

**DATA：皮膚科**

- 施設認定：日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本皮膚科学会認定乾癬分子標的薬使用承認施設
- 主な対象疾患：湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹・痒疹、紅斑・紅斑症、薬疹・中毒疹、熱傷（広範囲な重傷熱傷は除く）、褥瘡などの皮膚潰瘍、水疱症・膿疱症、角化症、色素異常症、脂肪織炎、皮膚付属器疾患、母斑、皮膚良性腫瘍・悪性腫瘍、ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、性感染症など



◀診療科 HP

## 経験豊かな専門医が 様々な皮膚疾患に対応

当院の皮膚科には、5名の日本皮膚科学会専門医を含めた7名の医師が在籍しています。1日の外来患者数は平均約40名。多数の専門医の在籍もあり、皮膚生検数は、2019年度が207件、20年度が222件、21年度が262件と年々増加傾向にあります。また、22年度に行った局所麻酔の手術件数は皮膚生検も含めて475件、全身麻酔の手術件数は2件と、前年度より増加しています。

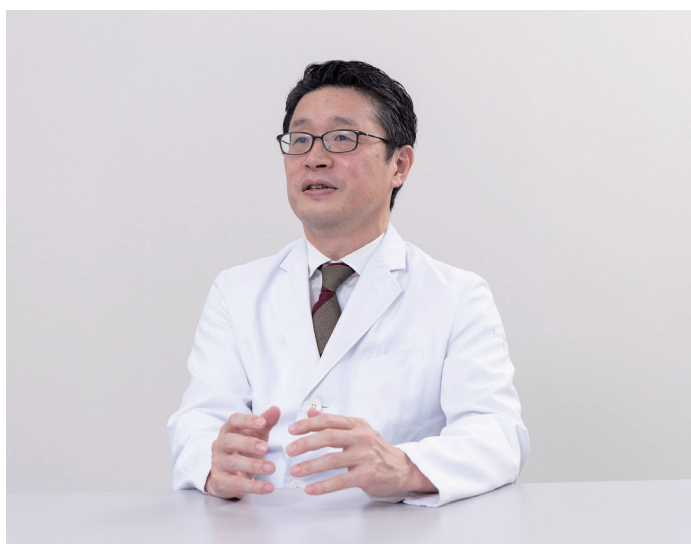
皮膚科で扱う病名数は400以上に及び、診療範囲の広さが特徴です。主な対象疾患は、重症化したアトピー性皮膚炎のほか、慢性蕁麻疹、帯状疱疹や蜂窩織炎といったウイルス性・細菌性の感染症、乾癬、薬疹、角化症、性感染症などで、多岐にわたる皮膚疾患に対応できる診療体制を整えています。近年、悪性腫瘍が疑われる患者さんや、難治性の皮膚疾患でお悩みの患者さんを地域の先生よりご紹介いただくケースが多くなっています。

私が専門としているのは、天疱瘡と類天疱瘡といった自己免疫性水疱症です。口腔内および全身の皮膚に水ぶくれやびらんが繰り返しできる自己免疫性の希少な疾患で、早期の診断と治療に力を入れています。

## 新薬による治療も安全に導入

前述の通り皮膚疾患は数多くあり、似通った症状を呈することもあるので、治療を始める前に採血や皮膚生検を行い、正確な診断をすることが第一歩となります。治療方針は病理検査や採血データ、画像診断を総合して決めています。

# 適切な検査で早期診断・治療へつなげる



例えば、希少疾患でもある天疱瘡と類天疱瘡が疑われる場合は、自己抗体の反応を観察する蛍光抗体法検査を施行したり、接触皮膚炎などアレルギーが疑われる場合は、パッチテストを行っています。診断が難しいこのような疾患も、適切な検査を行うことで、いち早く治療につなげられることが当院皮膚科の強みだと感じております。

さらに近年開発が進んでいる新薬も、積極的に治療にとりいれています。アトピー性皮膚炎はステロイド外用薬による治療が一般的でしたが、生物学的製剤の抗IL4/13受容体モノクローナル抗体や、炎症やかゆみに関わるサイトカインの働きをブロックする分子標的薬のJAK阻害剤などが登場し、治療の選択肢が広がっています。また、乾癬に対しても多くの生物学的製剤が使用できるようになっています。生物学的製剤、JAK阻害剤投与にあたっては、B型肝炎や結核を含めた感染症に注意する必要があります。当院は、日本皮膚科学会認定乾癬分子標的薬使用承認施設となっており、慎重な取り扱いが必要なこれらの新薬も、安全に導入する体制を整えています。

## 院内はチーム医療、地域とは病診連携を

皮膚科

### 院内連携で質の高い医療を提供

当院の特色として、他科や専門医療スタッフとの院内連携もあげられます。当院は歯科大学附属病院ということもあり、歯科・口腔外科との連携を緊密に行っており、皮膚科医師と歯科医師が同時に相談しながら診療を進める口腔粘膜外来を開設しています。当外来では、口腔粘膜生検などの口腔内検査や粘膜病変の処置や治療、口腔ケアを歯科・口腔外科が担当し、皮膚科はステロイドや免疫抑制剤などの内服治療に対応しています。歯科・口腔外科で口腔扁平苔癬と診断された場合は、金属アレルギーの鑑別のため、皮膚科でパッチテストによる金属アレルギーの検査を行う連携体制の構築がされています。また、歯周病が関与していると言われていた掌蹠膿疱症といった皮膚疾患も、歯科・口腔外科と連携して診療を行っています。

形成外科とは腫瘍の切除や再建手術を共同で行っています。当科は主に皮下脂肪までの手術を担当しており、それ以上深い部位や整容面が重視される部位、または合併症が起きやすい部位などの手術を形成外科と連携して行っています。切除した腫瘍の病理組織所見は必ず皮膚科のカンファレンスで確認しているほか、両科で月1回合同カンファレンスを行うなど、質と患者満足度の高い治療を目指し連携しています。

さらに、当科の褥瘡外来では、認定看護師が重要な役割を果たしています。褥瘡が生じた患者さんの治療を当科の医師が治療するだけでなく、皮膚・排泄ケア認定看護師が予防法を提案しています。特に褥瘡の発生・再発予防には体圧分散ケアが重要ですので、日々の姿勢のアドバイスやスキンケアの提案をしています。

ほかにも、関節に痛みや症状があらわれる乾癬性関節炎は内科のリウマチ専門医と一緒に診療にあたるなど、他の診療科の多様な医療スタッフと院内連携を図りながら、丁寧な診療を心がけています。

### 地域の先生方と協力を図る

何度も繰り返す皮膚症状や難治性皮膚疾患でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら当院へご紹介ください。なかなか治らない皮膚疾患を丁寧に診断し、多様なチーム医療で治療をサポートいたします。そして、当院の治療が一段落した患者さんは、再びかかりつけの先生方へ診療をお願いしたいと考えております。

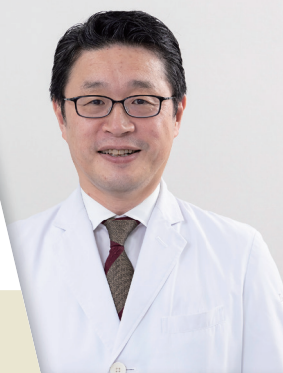
今後とも、地域の先生方との交流を深め、先生方と協力しあいながら、一人でも多くの患者さんが満足いく、緊密な地域連携につなげていけるように努めてまいります。

#### Dr's profile



Ken Ishii

石井 健 医師



#### 出身地

千葉県銚子市

#### 趣味

低山のハイキング。最近は東京・奥多摩にある御岳山へ。肌を守るために帽子と日焼け止めできがり対策をする

#### 医師になったきっかけ

父が皮膚科医だったため、自然と同じ道に進んだ

#### スポーツ歴

中学時代は軟式テニス、大学では硬式テニス

#### 好きな言葉

Every cloud has a silver lining  
どの雲にも銀の裏地が付いている。つまり、「どんなに悲観的なときでも、明るい面もある」という、海外のことわざ

【掲載写真について】感染症対策を行ったうえ、撮影時のみマスクを外しております。

#### 医療機関の先生方へ

市川総合病院 初診事前予約申込書  検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～12時(第2土曜日は休診日)

本号に関するご意見をお寄せください

